

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年12月25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872300231		
法人名	有限会社 茨城まごころ介護サービス		
事業所名	グループホーム ころ	ユニット名	あやめ
所在地	〒311-2423 茨城県潮来市日の出1-21-1		
自己評価作成日	平成24年6月10日	評価結果 市町村受理日	平成24年12月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0872300231-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年7月31日	評価確定日	平成24年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者一人ひとりにゆったりした気持ちで関わりながら、利用者のできることは積極的に行ってもらい、また利用者が出来ない事は職員が協力しながら行うようにして、落ち着いた生活をおくれるよう支援しています。</p> <p>ホームには広々としたデッキがありいつでも外気にふれあうことができます。</p> <p>また中庭には藤棚もありベンチも置いてあるので利用者が思い思いに過ごし外気浴を楽しんでいます。</p> <p>また、パンを焼いたり、野菜や草花を育てたりしています。</p> <p>定期的に利用者と一緒に買い物や外食なども出かけ外出する楽しみを支援しています。</p> <p>利用者同士がさり気なく助け合い、生活の中には笑顔が絶えず、ゆったりとした環境の下で地域との関わりを深めながら明るく楽しく生活できるよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は「一人ひとりの思いを尊重し家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、個人の持っている力を最大限に生かしながらこころ穏やかにゆったり、楽しく、暮らしていきます」との理念を大切にしながら支援に努めている。</p> <p>定期的に大正琴や尺八、読み聞かせなどのボランティアが来訪するとともに、利用者は市主催の「踊りの饗宴」に出席したり、地区の集会所で行われる茶会に参加するなど、地域と交流しながら暮らしている。</p> <p>利用者は居間続きのデッキや中庭の藤棚の下に設けられた石のテーブルと椅子でお茶を楽しむとともに、庭に植栽された桜や藤などの樹木や四季折々の花を楽しみながら外気浴や散歩をして穏やかな日々を過ごしている。</p> <p>東日本大震災の経験により、災害の発生に備えて一週間分の食糧や飲料水、おむつ等を備蓄するとともに、大型発電機や毛布、電池、着替え用の衣類を準備している。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が施設の理念に基づいたケアを目指して取り組んでいる。	「一人ひとりの思いを尊重し家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、個人のもっている力を最大限に生かしながらこころ穏やかにゆったり、楽しく、暮らしていきます」との、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成して玄関に掲示するとともに、管理者と職員はミーティング時に確認しながら共有し、実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地元ボランティアの、虹の会（大正琴）・浪逆の会（尺八）・菊の会（読み聞かせ）の方々と交流を深めている。	利用者は市主催の「踊りの饗宴」に招待されて出席するとともに、月1回地区の集会所で行われる茶会に参加して地域の高齢者と交流している。 定期的に大正琴や尺八、読み聞かせなどのボランティアが来訪するとともに、地域の祭りの神輿が事業所の庭に訪れており、利用者の楽しみとなっている。 中学生や障害者の職場体験学習やホームヘルパー2級養成研修の実習生を受け入れるとともに、管理者は地域住民から認知症についての相談を受けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生（中学生）の職場体験や、ヘルパー講習の実習生、障害者の職場体験（介護実習）の受け入れを行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見を取り入れながら、業務改善に取り組んでいる。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、区長、地域住民の代表で開催しているが、2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。 会議では事業所の状況や行事、外部評価への取り組み状況などについて報告し話し合うとともに、家族等からの質問を受けて震災時の事業所の対応や備蓄についての説明をしている。	運営推進会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組みの内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるので、2ヶ月に1回開催できるよう取り組むことが望まれる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険担当者とは、利用者の状態やホームの空状況などの連絡を密に取っており、常にホームの状況を理解して頂いている。	市担当者が運営推進会議に出席している。管理者は市に頻繁に出向いて事業所の状況を伝えたり情報交換をするなど、市担当者と連絡を密に取り協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束』についての勉強会を開催したり、地域密着型サービス等の正しい知識の習得に努めている。	月1回のミーティング時に「身体拘束の無いケアについて」を議題として取り上げるとともに、外部研修に参加した職員の報告を基に勉強会を実施して全職員が身体拘束における弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。 近隣で発砲事件があったため家族等の承諾を得て玄関を施錠しているが、職員の目が届く時には様子を見て解錠している。 利用者は居間続きのデッキから四季折々に楽しめる樹木や花が植栽された中庭に自由に出ることができ、拘束感の無い生活を楽しんでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『虐待』についての勉強会を開催したりして、高齢者虐待防止法などの正しい知識の習得に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの中で『権利擁護』についての勉強会を開催し、全職員が正しい知識を習得し活用できるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事細かに説明することに心掛け、特に料金等の説明には時間をかけ家族に理解と納得を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは普段の関わりの中で、また、家族とは面会に来られた時に、意見や要望を聞き出せるようにし、随時取り入れられるようにしている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 意見箱を設置しているほか、家族等との電話や面会時に話を聞くなど、意見や要望を表わせる機会を設けている。 年2回家族会を開催しており、案内状発送時にアンケートを実施し、結果は家族会時に報告するとともに、参加できなかった家族等には郵送して報告している。 アンケートで出た意見等を受けて事業所便りを発行したり、職員のエプロンにネームを入れるなど、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見や業務改善等を出してもらい、その都度話し合いをして必要な場合に現場に取り入れている。	管理者は月1回のミーティングや新年会、忘年会、ボーリング大会を実施し、職員とのコミュニケーションを図るとともに、投書箱を設けて職員が意見や要望、提案などを出し易いよう工夫している。 出た意見等は議事録にまとめて検討し、直ぐに対応できるものは迅速に対処するなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が希望休み（月2日）以外で自由に有給休暇取得ができるようにしている。また残業にならないよう定時帰宅を促している。経験年数を考慮しながら研修会にも参加させている。また研修会に無理なく参加できるようシフト調整も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修マニュアルを用いて教育・指導を行っている。又経験に応じて研修会・講習会等に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム事業所と定期的に職員を訪問させたり、また職員を受け入れたりして自己啓発の場として実施してサービスの質の向上をめざし、お互いの良い所を吸収しあえるよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人と積極的に関わりながら利用者を理解するよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来られた時には必ず利用者の状況を伝えながら会話し、家族の不安や要望等を聞きだせるよう家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に家族が不安に思っている事をくみ取り、具体的な支援を考えながら改善に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ等を一緒に行っている。また一緒に昼食をとり、コミュニケーションをとりながらお互いの信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や諸行事に参加して頂き、家族と一緒に食事や余興を楽しんで頂く場を持ちながら家族との絆を大切にしている。また、家族交流会においては、各家族と懇談の場をもうけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方が面会に来て下さった際に、ゆっくり会話ができるような環境を提供している。本人が慣れたしんだ店に買物や外食に出かけたりしている。	利用者の親戚や友人、以前住んでいた近所の人、遊び仲間、職場仲間、同級生が来訪している。 職員は利用者の居室にテーブルや椅子、お茶などを準備して和やかな時間を過ごせるように配慮するとともに、電話の取り次ぎをして馴染みの人との関係が途切れないように支援している。 利用者が友人の協力により礼拝のために教会へ出かけたり、家族等の協力で墓参りや行きつけの店、理・美容院に外出ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や歌を行い、参加出来ても出来なくても声はかけるようにしている。レクの途中でもADLの悪い利用者に対して他の利用者同士で手助けしてあげる場面が見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了（死亡等）しても、暑中見舞いや年賀状のやりとりをしている。また他施設に移った場合など、本人に会いにいたりもしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との会話を重視しながら、希望や意向などを聞き出せるようにし、内容によって随時職員間で話し合い、本人が望む『自分らしい生活』が送れるよう検討をしている。	職員はフェイスシートにより利用者の生活歴や思いを把握するとともに、さりげなく話しかけて希望や悩みなどを聴き、利用者の意向にそった支援に努めている。 思いを表わせない利用者には家族等から話を聴いたり、支援の際の話し方や表情、しぐさなどから思いを汲みとるよう努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人にこれまでの生活歴などを聞き出し、なるべく今までの生活リズムで過ごせるように、コミュニケーションを深めると共に、今までの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の持っている力（出来る事）を把握し、出来る事は積極的にしていただいている。又各自の心身状態の維持向上を目指し本人にあわせた運動等も行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中での気づき、本人・家族の意見や要望を基にアセスメントを行い介護計画を作成している。一定期間後にモニタリングを行い介護計画を確認しながらカンファレンスを行い状況によっては介護計画の見直しもしている。	介護計画は利用者や家族等の意向や課題を把握し、計画作成担当者が中心となり職員と話し合っ作成している。 利用者一人ひとりの状態により短期目標は3ヶ月から6ヶ月毎、長期目標は6ヶ月から1年毎に見直し、家族等の来訪時や遠方の家族等には郵送して確認を得ている。 介護計画は毎日の支援状況を記録した「生活支援実施書」を基に月1回のミーティングで検討し、必要な場合は現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態の変化によって、日々の様子、記録を振り返りながら、職員間で情報を共有し、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の様子や本人の言葉を記録し、職員同士が利用者一人ひとりの情報を共有できるようにしている。その情報の中から利用者のニーズを見つけ出し支援できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校より運動会やイベントの招待状をいただき見学に行ったりしている。また外食・外出を定期的に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認した上で、かかりつけ医療機関に受診している。また、かかりつけ医師の指示の基、定期的な健診も受けている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としており、家族等と協力してかかりつけ医や専門医への受診に付き添うなどの支援をするとともに、受診結果は記録し、家族等に代わって付き添った場合には電話で報告して共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者との関わりの中で気づいた点また本人の訴えは必ず看護師に伝え指示を仰ぎ対応するようにしている。状況によっては病院受診している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、担当看護師から病状の説明を聞くようにし、早期退院に向けた体制及び連携をはかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いながら、看護師を交えながら職員間で対応方針について検討している。また、主治医に状況を報告し指示を仰いでいる。ターミナルケアについての勉強会も開催し、チームケアで取り組むよう努めている。	重度化した場合や終末期の対応について事業所の指針を作成するとともに、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。管理者はターミナルケアについての勉強会を実施するとともに、利用者が重度化した場合には段階毎に家族等の意向を踏まえながら医師や職員が連携して対応できるよう取り組んでいる。昨年看取りの経験をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルに基づいて看護師の指導を受けている。また、夜間帯の急変時は看護師に連絡し来てもらえるような体制にしている。日々の業務の中で応急手当や急変時の初期対応について看護師から指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。また地域の方に災害時の協力を承諾してもらっている。地震対策についても行っている。	夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施するとともに定期的な設備点検を行っているが、避難訓練に消防署の立会いを得るまでには至っていない。災害発生時に近隣住民の協力が得られるよう書面で承諾を得ているが、近隣住民が勤めていることなどで避難訓練への参加は得られていない。避難訓練の結果は記録しているが、課題や反省点を話し合い記録に残すまでには至っていない。東日本大震災の経験により、災害の発生に備えて一週間分の食糧や飲料水、おむつなどを備蓄するとともに、大型発電機や毛布、電池、着替え用の衣類を準備している。	避難訓練に消防署や近隣住民の参加を得て事業所の災害対策に理解を得るとともに、協力体制を整えることが望まれる。避難訓練で明らかになった課題や反省点を話し合い、記録して次回に活かすよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに同じ対応ができるようミーティング等で話し合い、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないよう目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管するなど、取り扱いには十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や、行動、発言を良く確認しながら声かけする事を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重しながら、利用者のペースに合わせて、ことわざ・カラオケをしたり、歌の好きな人には音楽をかけてあげたりするなど色々工夫した支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで着ていたり、時には職員と買物にでかけ本人の好きにな服を選んで買ってきたりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は利用者と職員が一緒にテーブルで会話を楽しみながら食事している。また一緒に食事（昼食・夕食）の準備をしたり、食後の洗い物や食器拭きをして下さる。また畑でできた農作物などを一緒に採ったり料理して食べたりしている。	職員は利用者の状態に応じて刻み食やお粥にしたり、献立に好みの物を取り入れているほか、利用者と一緒に自家菜園で育てたじゃがいもや茄子、トマト、ゴーヤなどの旬の野菜を食材に取り入れている。 利用者は野菜の下ごしらえ、下膳、食器拭きなどの役割を担いながら楽しく食事をしている。 蕎麦や回転寿司、和食などの外食に出かけ、気分転換を図れるよう支援するとともに、家族会時に仕出し弁当を取ったり、ホットケーキやたこ焼きなどのおやつを手作りするなど、食事に変化を付けて楽しめるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や体重、排尿量によって食事や水分の摂取量の調整をしている。また体調によっては、お粥・刻み食などに変更して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアができる方は見守りや声かけして行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、本人がトイレ行かれた時にはプライバシーを損ねないように、声かけや介助には十分注意している。	利用者一人ひとりの生活習慣や排泄状況の記録を利用して排泄パターンを把握しながら声かけ誘導し、可能な限りトイレで排泄ができるように支援するとともに、パッドの利用によりできるだけおむつの使用を減らせるよう取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給をしたり食物繊維の多い食材を使用したりしている。また歩行など軽い運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は定期的に入っており、本人の意思で入りたい時に常時入れるようにしている。また入浴拒否がある場合は時間をかけながら声掛けをして促している。時々入浴剤も使い雰囲気を変えてゆっくりくつろいで入浴して頂けるようにしている。	入浴は基本的に週2回と決まっているが、毎日でも入浴ができるよう準備をするとともに、利用者の希望や体調に合わせてシャワー浴や足浴などの対応をしている。 季節毎に柚子湯にしたり入浴剤を利用して温泉気分で寛いで入浴ができるよう工夫している。 入浴を拒む利用者には、入浴する時間を変えたり声かけの仕方を工夫して無理のないよう支援している。 脱衣室に扇風機や暖房器を備えて温度差による利用者の身体への負担が少なくなるように配慮するとともに、利用者が重度化した場合でも対応ができるようリフト浴の設備を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換・布団干しを行い清潔保持に努めている。また本人が「休みたい」と訴えがあった場合やリビングにて眠ってしまった場合などは和室や居室で休めるよう誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬し、薬の使用方法等については個人別内服薬説明書を参照し、理解に努めている。また飲み忘れがないよう服薬介助した職員が記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な分野（料理・掃除・裁縫・庭いじり等）を行って頂き生活に張りを持って頂いている。また天気の良い日には気分転換に近くの公園まで散歩したりドライブに出かけたりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物と一緒に出かけたり、天気の良い日はドライブに出かけたりしている。また本人の希望により近くの公園や商店まで徒歩で買い物に行ったりしている。	年間計画を立てて初詣や祇園祭見学、おにぎり持参で花見、紅葉狩りなどに出かけるほか、天気の良い日には近くの公園に散歩に出かけたり、デッキや中庭の藤棚の下に設けたテーブルや椅子でお茶を楽しめるよう支援している。 広い庭に四季折々に楽しめる樹木や花を植栽し、外出が困難な利用者も外気浴をしながら季節を楽しめるよう支援している。 利用者は月1回の外食のほか、職員と一緒に食材の買い物に出かけたり、家族等の協力を得て墓参りや馴染みの美容院へ出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はお金の管理が困難な為、必要な物や本人が希望する物は施設で一時立替え、職員と一緒に買い物に行き、支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したい時に電話できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・玄関等には季節の花を飾ったり、季節感のある小物なども置いている。またデッキにも花を飾り観賞したりしている。室内では昔の歌謡曲や童謡などの音楽を流し、利用者が集まれるような空間作りを心がけている。	居間続きに広々としたデッキを設置し、外気浴をしたりお茶を楽しみながら寛いで過ごせるよう工夫している。 壁に帽子やバッグなど、利用者の裂き織の作品を飾るとともに、廊下や居間に明るい色調のソファを置いて利用者同士がおしゃべりしながら居心地よく過ごせるよう配慮している。 節分や雛祭り、七夕、クリスマスなど季節毎の飾り付けをするとともに、玄関や居間に季節の花を活けて季節感のある環境づくりをしている。 居間の隣りに畳の部屋があり、利用者は昼寝をしたり利用者同士の憩いの場として居心地よく過ごしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・和室・ソファを利用して談話しながら過ごせるようにしている。またデッキから中庭に出る事もでき、藤棚にあるベンチで利用者同士お茶をしたり庭を眺めたりしている。廊下にもソファを置き一人でゆっくり座り、昼寝できるような空間にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談し、本人の使っていたベットや布団等を使用して頂いている。また、使い慣れ親しんだ鏡台やタンス、家族の写真等を飾ったりして本人の好みの空間を作っている。	利用者は居室にベッドやソファ、テレビ、利用者が嫁入りに持ってきたタンス、鏡台など使い慣れた物品を持ち込むとともに、壁に時計やカレンダー、手作り作品などを飾ったり、家族の写真や花を置いて寛いで過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に応じて居室をトイレの近い場所にしたり、本人が自室を分るよう入り口に大きな名前札を設置している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこころ

作成日 平成24年11月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を2ヶ月に1回開催できていない状況にある。	2ヶ月に1回の開催を目標に定期的に行うことができるようにする。	出席者メンバーへ年間開催計画予定を配布し、その都度連絡・調整を行い開催していく。	12ヶ月
2	35	消防署立会いの避難訓練が実施できていない。	年1回は消防署立会いの避難訓練を実施するようにする。	事業所の避難訓練に参加してもらえるように消防署にお願いに行く。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。